

相互作用を考慮した服用タイミングの提案

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬歴管理により相互作用による治療効果の低下を回避し、適切な薬物治療の継続に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

下部食道がん術後に、発熱・CRP上昇に対して抗菌薬が内服開始となった患者。
術後よりスクラルファート内用液を服用中であった。

【処方】レボフロキサシン錠 500 mg 1回1錠 1日1回朝食後
スクラルファート 10%内用液 1回1包 1日3回毎食後

Nさん



医師

昨日から発熱があって、CRPも上がっているのので、今朝からレボフロキサシンを開始しています。どうされましたか？

お疲れ様です。
Nさんのレボフロキサシンについてご相談です。



薬剤師



そうですか。一緒に使わないほうがいいですか？

Nさんが現在内服されているスクラルファート内用液とレボフロキサシンはキレート形成の相互作用により、レボフロキサシンの吸収が悪くなるので、効果を十分に発揮できないと思われます。



なるほど。わかりました。
よろしくお願いします。

同時服用ではなく、服用間隔を2時間以上空けることで問題なく使えると思います。
病棟へはそのようにお伝えしてもいいですか？



薬歴管理により相互作用による治療効果の低下を回避し、適切な薬物治療の継続に貢献できた。